

2025年1月1日
第583号
(毎月1日発行)

咲いたネット
URL：
http://www.saitanet.or.jp
Eメール：
saita@saitanet.or.jp



発行所
埼玉県労働組合連合会
〒330-0063
埼玉県さいたま市浦和区高砂
3-10-11 第一木村ビル
TEL 048-838-0771
FAX 048-838-0775
編集発行人
埼玉県労働組合連合会
【定価】1部50円
(組合員の購読料は組合費に含む)

あけまして

おめでとうございます

2024年も埼労連の運動にご尽力いただきありがとうございました。

昨年は、1月10日の新春スタート宣言ではじまり、24春闘、第95回埼玉県中央メーデー、全自治体訪問行動など、長年積み重ねてきた運動を軸に、8年ぶりに取り組んだ「最低生計費試算調査」での運動の広がりづくり、ジェンダー平等推進をめざした組織改革、全国一律最賃制度実現の取り組みなど、今後も引き継いでいく取り組みが旺盛に行われました。

2025年は、こつした取り組みをさらに前進させ、物価高騰に対応できる生活水準めざす25春闘での大幅賃上げと「生計費原則」に基づき、「最低賃金今すぐ1500円以上・全国一律最賃制度の実現」など、労働者・国民の暮らしと権利の向上を実現していく1年にしていきます。

(4面に関連記事と写真掲載)

最低生計費調査結果を力に、
新しいなかまの活動参加で
前進の1年に
25春闘勝利



ストライキ支援 (JMITU)



新春旗びらき



大会では組織表彰も



メーデーで最賃音頭

紙面から

- | | | | |
|-------------|---------|------------|------|
| ■ 2024年の諸活動 | (1面・4面) | ■ SAITANE | (5面) |
| ■ 藤田議長あいさつ | (2面) | ■ 各組織のとりくみ | (6面) |
| ■ 春闘討論集会 | (3面) | ■ 埼労共のページ | (8面) |

新年のごあいさつ (埼労連議長 藤田省吾)

新年あけまして

おめでとうございます。

本年もよろしく

お願い致します。

2024年は、都知事選での石丸現象や国民民主党の躍進、兵庫知事選と改めて、「SNS選挙」が注目されました。アメリカ大統領選でのトランプ勝利と併せ、「民意」というものについて考えさせられました。

ヨナリズム、レイシズム、ヘイトスピーチ、極右・ポピュリズムの台頭が起きています。社会の分断、不安、無関心、絶望、諦観の背景には、やはり富の偏在の問題があると考えます。分配の歪みは、格差と貧困の拡大が再生産され、経済格差が社会的格差につながり、差別と排除の温床になります。

今世界中で、フェイクニュースを称揚するような「反知性主義」の広がり、移民排斥、極端なナシ

「人はいとも簡単にファシズムになびく」「民主主義が『多数者の支配』と理解されるような社会では、その危険はむしろ高まっている」「独裁体制の支配者など、権



威に服従する人々は一見従属的な立場に置かれているように見えるが、実は上からの命令に従うことで自分の要求を充足できる治外法

権的な自由を享受しており、主観的にはある種の解放感を味わっている可能性が高い」と述べています。

「新しい資本主義」から「新しい戦前」への入れ替わりを許さない

韓国の尹錫悦(ユン・ソンニョル)大統領は、12月3日に突然、「非常戒厳」を宣言しました。この戒厳令は、一切の政治活動、デモや集会を禁止し、言論と出版を統制するものでしたが、市民は国会前に次々と集まり抗議の声を上げ、軍隊に本会議開催の妨害をさせないよう腕を組みピケをやり、国会議員は塀を乗り越えて国会内に入り、本会議に出席した190人全員が解除に賛成の意思を示しました。その結果、わずか6時間で解除され、「史上最短の戒厳令」となりました。

今回の経緯は、「緊急事態条項」の危険性を改めて鮮明に示したものです。

日本ではこの間、自民党、公明党、国民民主党、日本維新の会などがコロナ禍や震災対応などを口実に「緊急事態条項」創設のための改憲を強く主張しています。自民党は、9月2日の改憲実現本部の会合で「緊急政令」の導入を9条への自衛隊明記と合わせ早期の改憲実現を強調してきました。

「緊急政令」とは「法律と同一の効力を有する政令」(自民党改憲草案)です。内閣が国会審議を抜きにして政治活動の自由や報道の自由を「政令」で制限することも可能で乱用の危険が大きく、それを防ぐ手段も乏しいもので、まさに今回の韓国の「非常戒厳」が示したのと同様の危険をもたらすものです。

今年には戦後80年です。あらためて、日本国憲法と歴史を学び、平和と民主主義、人権を守るために、さらに奮闘する決意を申し上げます。

◆当面の日程◆

- 【1月】
 - 11日(土) 単産地域代表者会議 埼労連旗びらき
 - 15日(水) 春闘スタート宣伝
 - 20日(月) 春闘共闘第2回 代表者会議
 - 22~23日 全労連評議員会
 - 29日(水) 春闘交流会(関フロ)
- 【2月】
 - 8日(土) 埼労連第5回幹事会
 - 15日(土) 働くなかまの 春をよぶつどい
 - 26日(水) 2・26地域総行動
- 【3月】
 - 6日(木) 中央総決起集会
 - 8日(土) 埼労連第6回幹事会
 - 12日(水) 統一回答指定日
 - 13日(木) 全国統一行動
 - 22日(土) 埼労連第52回評議会
- 【4月】
 - 9日(水) 第2次最賃デー 地区協幹事会 中旬
- 【5月】
 - 1日(木) 埼玉県中央メーデー

November 1600E, NCTU 1000E, NCTU 2025 埼玉春闘討議集会

埼玉春闘共闘主催の25春闘討議集会が12月7日(土)午後1時15分から、さいたま市ときわ会館5階大ホールで開催され、13単産47人・19地域組織28人・講師や事務局含め合計90人が参加しました。

講演は、埼玉連・最低生計費試算調査結果を分析した中澤秀一・静岡県立大学短期大学部准教授が「最低生計費調査結果を25春闘で

活用しよう」を演題に行いました。

今回先行してまとめた若年単身者の調査結果が、著しい物価高騰を反映して食費・水光熱費などが増大しており、月額27万円余(税・社会保険料込み)必要と紹介しました。また、賃金とは何か、憲法25条という健康で文化的な最低限度の生活とは何かにもふれ、日本



ときわ会館で開催

本の最低賃金が低すぎる現状を25春闘で打開していく重要性を強調しました。

続いて宍戸事務局長が25春闘方針案を提案。この間の論議をふまえた強調点として、24春闘の経験から、①全組合員参加によって25春闘をたたかうこと、②労働組合の姿を見せること、③多くの未組織労働者を視野に「何かしてあげる」のではなく、「ともに変



中澤先生の講演

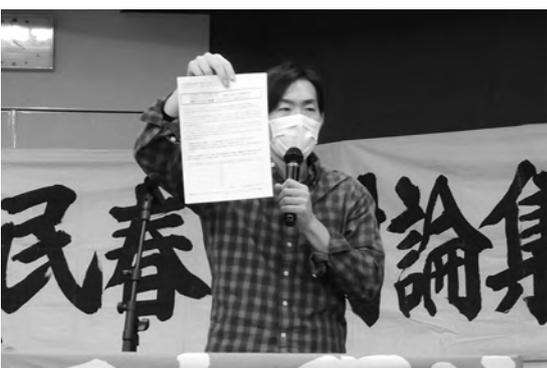
えていく」ことに触れました。また、たたかう基本方針で「ストライキを配置し、団結力で突破し、要求をたぐりよせる」点を強調しました。

全体討論では、建交労県本部トラック部会から「最低生計費試算調査にとりくみ、若年単身者の合意形成会議に参加した。調査の重要性がわかり、労組の意義もあらためてわかった。生計費調査結果を根拠にした要求づくりが大仕事」と当事者として生計費調査に関わったことで確信を深めた経験が語られ、JMITUからは「24春闘と同様、要求に対する経営者要請やストを含む統一行動に地域からの支援をお願いしたい。

とても力になる。回答不満のときのストライキは大事。団結を固め、全員参加をめざす」との発言がありました。

地域からは「埼玉連11月の自治体訪問行動は、賃金を4月遡及し引き上げるのに大きな役割を果たしたし、自治労連の組合も力を発揮した。春闘につなげていく」(比企)、「労働学校、社会保障や学校給食無償化課題での地域共闘、労働相談などに取り組んでいる。25春闘への地域実行委員会を立ち上げる」(狭山)などが報告されました。

全体討論終了後、宍戸事務局長



討論の様子

が討論のまとめを行い、次の3点について補強しました。

①地域を軸に25春闘をどうすすめるか、特に地域で働く非正規・委託の仲間はどう働きかけていくか、②厚労省毎月勤労統計が10月の結果を出し前月比でプラスマイナスゼロなのに「マイナスから抜け出した」とマスコミが大きく報道している。最低生計費試算調査結果をどう活用して要求にするかが大事。③春闘の組み立てでは、自治体への春闘要求書提出、1月15日の自治体前宣伝で会計年度職員向けに「いっしょに組合に入ろう」と呼びかける大切さを訴え、藤田議長の団結ガンパロウで閉会となりました。



団結ガンパロウで閉会

1年間のとりくみ

2024年は、長期化する物価高騰に立ち向かい、24春闘での大幅上げ、最賃引き上げの取り組みなど、「労働組合の姿を見せる」とりくみを意識した運動を進めてきました。

第95回メーデーは、北浦和公園での開催で、あいにくの空模様の中でも県庁までパレードも行いました。4月から最低生計費試算調査にとりくみ、多くのなかまの協力で目標とした調査票の回収数を上回り、なかまの確信を高めました。第36回定期大会では、新しい第8期中期計画を確認し、次世代の結集と、単産と地域の連携による学習の強化の実践がスタートしました。

東部と中南部で地区協主催の次世代行事が取り組まれ、若い世代の組合員の結集の第一歩となりました。

経済団体などと地域経済活性化と最賃引き上げについての意見交換を実施。草加市で、「最低賃金の格差是正と中小企業への支援を求める意見書」が採択され、県内で

5つ目となりました。

12月の春闘討論集会では、最低生計費の結果を春闘に生かそうと学習と討論で深め、「ストライキが実施できる」体制づくり、みんなで決めた要求に徹底的にこだわることを確認し、25春闘への決意が高まりました。



次世代で交流 (東部)



地域運動交流会



大野知事と懇談



平和ツアー (福島)



最低生活費試算調査合意形成会議



5年ぶりのビアパーティー

2日間で100人以上が参加 SAITANE!2024(埼高教)

埼高教は、秋の拡大月間(10月・11月)の最終日に1泊2日で「SAITANE!2024」を開催しました。企画・運営は青年部が中心になって行いました。

1日目の記念講演は、フォトジャーナリストの安田菜津紀さんを講師としてお招きし、90人以上の参加者で会場は立ち見が出るほどの大盛況でした。

パレスチナ・ガザ地区で手紙を書いたり風あげをしたりする子ども



2日間で100人以上参加

もたちの写真が紹介されました。

手紙は東北の人たちへのメッセージ、風あげは東日本大震災の被災地の復興を願って2012年から毎年3月にガザ地区の人々が続けているとのことでした。遠い日本で暮らす人々へ思いを馳せて、幸せを願ってくれていたガザの子たちが、今激しい戦火の中にいる事に、悲しみや憤りを感じる参加者が多くいました。

夕食交流会には、ベテランから若手までたくさんの方があり、「組合の交流会に初めて参加しました」という参加者もいました。2次会は青年が20人近く集まり、深夜まで組合のことを熱く語り合いました。組合の要求は何なのか、なぜ組合が必要なのか、そんなことを喧々諤々と語り合い、最後に「やっぱり仲間を増やすことが大切だ！拡大頑張ろう！」と盛り上がりお開きとなりました。

青年教職員が泊まりでじっくり話し合える「SAITANE!」ならではの学びと、埼高教の希望



2日目は分科会

望の芽”がそこにはありました。

2日目は、分科会で授業づくりや修学旅行、教材としての絵本についてなどを学習しました。

分科会テーマはどれも、青年教職員の「こんなことを学びたい・話し合いたい」というニーズから企画され、どの分科会も参加者にとって充実した学びの場・交流の場になりました。フィールドワークで歴史探訪したグループもあります。

2日間をあわせて、未組合員の参加もありました。「SAITANE!楽しかったねーあなたもぜひ埼高教に！」と、各職場で対話が始まっています。

今年には教育をテーマに開催 狭山わくわく労働セミナー

狭山地区労が実行委員会を立ち上げ実施している狭山わくわく労働セミナーは、昨年「公共を取り戻す」をテーマに開催。今年「教育問題」を中心に11月21日(木)と12月5日(木)の2回実施しました。いずれの回も20人の参加がありました。

約1時間の講演の後、グループで話し合い、「教育の実態を具体的に理解できてよかった。先生の長時間ブラックの状況を早急に改善していくとか、子どもや保護者が安心できる環境をつくるということが大事だとつくづく感じた」などの感想が寄せられました。義務的な労働を減らし、授業の準備や子どもと触れ合う時間を増やしていくのが本当の「働き改革」であり、そのために教員増と少人数学級の実現が急務であるというところを確認しました。

(狭山地区労発)

2回目は、さいたま教育文化研究所の山内芳衛副所長から、教育政策の問題点についてお話がありました。デジタル教科書や子どもへのタブレット配布が、大きな財政負担になっていて、それが教育産業に奉仕するものであること、一方で少人数学級の実現、教師の増員などが遅れていることなどが指摘されました。



グループで討論

池袋謎解き街歩きと おいしいランチで次世代結集 (飯能日高地労連)

飯能日高地労連は12月8日(日)に次世代対策の取り組みとして「池袋謎解き街歩き」交流行事を行い、9人が参加しました。

この行事は、次世代結集を目的に具体化されたもので、すでにハイキングやラフティングなど地元でアウトドア系の行事を開催しているため、今回は地元を離れて、嗜好を変えたアクティブな取り組みとして「池袋謎解き街歩き」を計画しました。池袋は、次世代の



みんなで謎解き

仲間にとって魅力的な街であり、アクセスしやすいという利点も。そして仲間とグループになって『謎解き』に挑戦するという内容が、交流行事にはもってこいだというところで企画しました。

当日は午前9時45分にアニメイト池袋本店に集合し、午前10時から池袋の街を歩きながら謎解きスタートです。謎解きグッズとスマートフォンを駆使しながら東池袋を中心に散策し、ヒントを頼りに目的地へ移動。そこで謎解きのヒントを探しLINEに答えを入力・送信という方法で、池袋を半日で約1万歩きました。ステージ1からステージ6まで徐々に難易度も上がり、円陣になって参加者みんなで知恵を出し合い、答えがわかった時は、目からウロコのすっきりとした笑顔を見せてくれました。普段歩かない街中で、かわいらしいお店やカフェ、大きな公園、新しい建物、閑静な住宅地など新しい池袋を発見することも

ありました。



ホテルのランチで乾杯

きました。

午後1時15分にホテル・メトロポリタン前に集合して、地労連恒例の景品抽選会。参加してくれたことに意義があるハズレなしのくじ引きで、特賞、2等、3等、参加賞を用意、初参加の仲間が2等を引き当ててくれ、企画した側も一安心。ホテル内のレストランでのランチは、和洋中だけでなくスイーツも充実し、クリスマス特別限定メニュー『ふかひれ入りおこげ』も堪能。アルコールも多少入り、楽しく交流できました。頭も体もお腹も心も大満足となり、午後3時に中締め解散となりました。

(飯能日高地労連発)

今年も「なんでも相談会」を開催 埼北労連

埼北労連は11月13日(水)の午後6時から8時まで、杉戸町のコティ杉戸で「なんでも相談会」を開催しました。

当日は、弁護士や生活相談もその場で対応できるように仕業の仲間も対応者として構えて行いました。スタッフは埼北労連役員を含めて7人でした。

今年も3件の相談がありました。内容は、土地購入に関連しての権利の問題、仕事をしたのにお金がもらえない事業での不払い相談、体調不良を考慮しない職場上司の出勤強要のパワハラ問題といった相談でした。相談内容に合わせて対応者が話を聞きましたが、どの相談者からも、簡単に解決できない悩みを相談できたこと、今後の自身の動き方が明確になったことに感謝をいただきました。職場での悩みの相談者は今回のアドバイスで解決が難しい場合はSU(全労連・埼玉ユニオン)の加入も検討することになりました。

なお、この相談会は毎回、事前



個々の相談者に対応

(埼北労連発)

介護職場の定例会で7人拡大

コープネットグループ労組

コープネットグループ労働組合は、正規、パート職員までがユニオンショップ協定で労組員です（一部、グループ会社のパート社員除く）。そのため、それ以外の労組未加入者への個人別のお手紙配布は継続しています。中には、共済互助会の助け合い事業や親睦交流などの案内を入れて、労働組合と共済互助会に同時に入ってもらうように、職場の仲間から声をかけています。



定例会で7人が加入

10月の執行委員会で組織拡大の議論をした際、介護・訪問の非常勤ヘルパーの定例会で労組の説明

をしたいと発信があったため、11月16日と20日の2日間、定例会に参加させてもらい、労働組合の紹介と活動の様子や共済互助会（ウエルクラブ）の制度も説明しました。すでに労組加入しているメンバーからの誘いもあり、1日目は未加入者5人中3人が加入、2日目は未加入者11人中4人が加入となり、7人が加入しました。

今後の分会会議の日程も決め、来月の分会開催前までに労組に加入すれば、参加できますよ！と伝えるチラシを作成し、引き続き、加入を勧め職場での団結を強めていきます。

最低生計費試算調査の取り組みでは、調査表の提出に302人に協力してもらいました。今回の若者単身世帯の調査結果を受けて、「最低賃金いまずく1500円」の声は、さらに大きな波になっていると感じています。「最低でも1500円」の要求実現に向けて、25春闘を闘っていきます。（コープネットグループ労組発）

秩労連が次世代企画UNI-ONWAY

秩労連は、12月15日（日）午前10時から秩父福祉女性会館で次世代向け企画UNI-ONWAYを開催。戦争させない・9条壊すな！

総がかり行動実行委員会共同代表の菱山南帆子さんを講師に、「ジェンダー平等社会の実現へ」今私たちにできること」と題した講演会に、48人が参加しました。

講演に先立ち、地元秩父農工科大学の高校生らによる日本国憲法の群読が行われ、スクリーンには参加した同高2年の生徒らが、憲法の条文からイメージして描いた

憲法の絵が本人による説明とともに映し出されました。

講演では、ジェンダー平等社会の実現に向けて、菱山氏が、女性要員という理由で参加を求められた経験や、容姿を他人に判断された経験を語り、「性別・容姿は選んで生まれてきたわけではなく、ジェンダー平等は女らしさ、男らしさという（らしさ）からの解放だ」と訴えました。

参加した高校生からは、「集まった大勢の参加者の前で講演をする姿をみて、自分たちの平和活動



高校生含め48人が参加

総会と元気集会開催（自治労連）

自治労連埼玉県本部非正規公共協は12月1日（日）、さいたま共済会館で定期総会及び「まなべ！つながれ！元気集会」（非正規公共の職種・分野別交流集会）を開催、34人が参加しました。

結成12年目となる非正規公共協は、自治体の会計年度任用職員や委託・指定管理下で働く労働者が交流・学習し、自分たちの権利を

守り、処遇改善を図り、住民のために良い仕事をしていきたいと活動しています。いま、自治体が担

うべき仕事を安易に手離し、民間委託・指定管理へ移行してしまう事態が増え、会計年度任用職員と正規との理不尽な賃金・処遇の格差も解消されていません。

集会では、自治労連本部の嶋林賃金権利局長が「住民のための

にも不安はあったけど、改めておかしいことに声を上げ、意見し続けることが大事だと思えた」と感想が述べられました。（秩労連発）

い仕事を実現するために」と題し講演。その後「住民のためのいい仕事」「学童保育」に分かれて討論。「住民のためのいい仕事」とはどんなことかを1人ずつ出し合い、それぞれが大切にしていることや思いがあり実現したいことを交流。学童分科会は青年の支援員も大勢参加し、学童の大規模化で思うような保育ができない悩みなどを話し合いました。（自治労連本部発）



1月の上映は「母とわたしの3日間」です。
3年前に亡くなった母が天国から帰ってきた。与えられたのは3日間。娘は大学教授を辞め故郷の家に戻り定食屋を営んでいた。母のレシピを再現していくなかで思

1月の上映案内



いがよみがえっていく。母と娘が織りなすファンタジー。大切な誰かに思いを馳せたい。韓国映画です。

【日時】

2025年1月29日(水)

埼玉会館小ホール

① 10時30分

② 14時

③ 18時30分

*埼玉労共専用当日精算券のご利用の場合900円です。

お問い合わせは埼玉映文協へ
048-8222-7428

セミナーのご案内

●埼玉県労働セミナー

埼玉県で勤労者の方を対象とした「埼玉県労働セミナー」を開催します。無料で受講できますので、是非、ご参加ください。

埼玉県労働セミナー

「労働法の基礎セミナー」
多様化するトラブルとその対処法

日時 1月28日(火)

18時30分～20時

場所 所沢市役所 6階604会議室

定員30名(事前申込制)

内容

- ・労働時間や賃金に関する定め
- ・労働条件の不利益変更
- ・残業代をめぐるトラブル など

【お問い合わせ】

産業労働部多様な働き方推進課

働き方改革推進担当

令和6年度 埼玉県労働セミナー【所沢会場】
労働法の基礎セミナー
～多様化するトラブルとその対処法～

★ 講師内容 ★
様々なトラブル事例と対処法
・労働時間や賃金に関する定め
・労働条件の不利益変更
・残業代をめぐるトラブル など

日時 令和7年1月28日(火) 定員30名
18:30～20:00 18:00受付開始 (会場・所沢市役所6階)

会場 所沢市役所 6階 604会議室

講師 小川 亞樹 氏
労働法・労務管理、その実践的あり方

TEL(埼玉県)

048-830-4518

●ろうきんセミナー

労働者の金融機関「ろうきん」では、定期的にオンラインセミナーを開催しています。

1月25日(土)

の午前10時～11時30分の時間帯で、「知ってトクする遺言の活用」が予定されています。視聴

は無料です。セミナー視聴を希望する方は、直接お申込みください。

中央労働金庫 知ってトクする遺言の活用
～円満・円滑な資産承継のために～

セミナー開催概要
日時 2025年1月25日(土) 10:00～11:30
開催方法 オンライン開催 Cisco Webex
セミナーの主な内容
●相続・遺言についての基礎知識
●遺言の活用について
●相続登記の簡略化・相続土地管理 相続制度関連について

セミナーご参加までの流れ
STEP1 申し込み
STEP2 申し込み完了後、お申し込みいただいたメールアドレス宛に「セミナー参加のご案内」が送付されます。
STEP3 参加
セミナー当日、お申し込みいただいたメールアドレス宛に「セミナー参加のご案内」が送付されます。当日は、お申し込みいただいたメールアドレス宛に「セミナー参加のご案内」が送付されます。

中央労働金庫コンタクトセンター 0120-383-837
お申し込みに関するお問い合わせ

フードバンク

第105便

埼玉連のフードバンク活動は12月12日(木)、第105便として埼玉連に提供された白米10・3キログラムをフードバンク埼玉に届けました。

この間、フードバンク埼玉から、物価高騰に伴い県内の子ども食堂などの米不足が深刻になっている報告が届いています。

単産・地域組織でのフードバン



フードバンク第105便

ク活動へのご協力と、とりわけ玄米・白米などの提供をあらためて呼びかけます。